

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 研究・事例の紹介	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	6
➤ 会議・イベント案内	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	7
➤ 会員募集中	8

巻頭書記

年度末の慌ただしい時期になりましたが、春の近づきを知らせるやわらかい日差しに、水面もいつもと違う輝きを見せているように感じます。桜が咲くのももう少しでしょうか。

本号では、平成22年2月23日(火)に開催しました第4回JRRNミニ講座の概要を報告いたします。

また、会員からの寄稿記事「水辺からのメッセージ No.10」の掲載とともに、河川再生に関わる取組の事例紹介として、岐阜県で行われている水辺復活への様々な取組をご紹介します。

引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告

第4回河川環境ミニ講座「川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点」開催報告

平成22年2月23日(火)、(財)リバーフロント整備センターにて第4回JRRNミニ講座を開催いたしました。

講演者には、「地域活動」の視点から水辺環境に関わる産・学・官・市民の交流の仕組みづくりに尽力されている全国水環境交流会代表理事山道氏をお迎えし、「川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点」をテーマにご講演をいただきました。また、聴講者は会場の関係上人数制限を設けておりましたが、行政、コンサルタント、市民団体等幅広い分野の方々計15名にご参加いただきました。



会場全体の様子

講演では、日本における約半世紀にわたる河川での住民活動の歴史のご紹介から始まり、続いて河川や水辺における市民の活動領域について、全国の特

徹的な事例とともに体系的にご説明頂きました。環境教育を兼ねた人件費をかけずに行える自然再生事業、市民の手で行うことで地元の方々が愛着を持つ川づくりにするといった有効な取組の例をご紹介いただきました。また、過去の写真から人々がどこを背景に撮影していたか、どこで遊んでいたかを読みとることが可能であり、その風景からも川づくりに活かすことができるというお話もありました。



ご講演の様子

その後、本題である住民が川づくりに参加する目的について、ご自身の約35年に及ぶ川との関わりのご経験に基づき、地域への愛着醸成や災害回避センスの向上、また安全で快適な暮らしの実現から新たな公の形成まで、その意味についてご講義頂きました。

パートナーシップで取り組む川づくりに向けて、市民と行政の役割分担及び一緒に取り組むべき事項についてのご提案は大変興味深い内容でした。市民は、川とのふれあいを増やし、パワーアップする。行政は変身し、イベントの企画やデータベースづくりを共に行うというものです。また、川を交流拠点として、森・里・川・海のそれぞれを生業とし自然再生に参加するというお話は、さらに関心を引く内容だったのではないのでしょうか。

最後に、「いい川づくり」のためには、川を知ること。「川を知る」とは、水文や地形も含めた川の性格を知り、川の楽しさや怖さも知ることである。日頃から川を知っておくことで小さな変化に気づき、ソフトな防災へとつながる。また、「いい川」というのは地域の人が決めていくものである。とまとめてい

ただきました。

講演後に行なわれた約1時間の意見交換では、積極的に川づくりに取り組む市民団体の方々が実際に直面している問題点についての様々な質問が出されました。参加者同士で意見を交わす場面もあり、充実した時間となりました。山道講師からは、河川管理者と市民の相互理解を促進するための一つの手段として、徹底した現場視察と（ワークショップ等の）ディスカッション機会をセットで作るなどの貴重な助言を頂きました。このような意見交換会は、これまでのミニ講座とは少し異なり、その有効性を十分に感じることができました。



市民団体の方からの質問

山道講師には、市民の川づくりへの参画について多方面から丁寧にご講演いただき、市民団体の方にとってだけではなく、コンサルタントを初めとする技術者にとっても必要となるであろう市民とのパートナーシップについて、大変参考になるものであったと思います。

当講座の配付資料等や聴講者のアンケートはJRRNホームページに、掲載しています。また、講演録についても準備が出来次第、公開いたします。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/1909.html>

今年度のミニ講座は、合計2回の開催でしたが、来年度は回数を増やし、より多くの交流の場、議論ができる場を提供したいと考えております。ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしています。

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

水辺からのメッセージ No.10

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

祇園の水網風景 川面にたたずむ白鷺も祇園の琴の音色に聴き入っているような



撮影：2007年12月（京都市祇園白川）

◆琵琶湖疏水から流れる水網の流れ

祇園周辺の朝は不思議な静けさが漂います。祇園白川はかつて琵琶湖疎水の流量調節機能としてつくられた人工水路ですが、周辺の建物は昭和50年代に伝統的建造物群保存地区に指定されています。

◆京都の寒い朝が似合う祇園白川

ゆったりとした川の流れは、京風町屋の窓辺から手に取れるほどの近さです。

白川の水辺景観は石畳の道と合わせて京都を代表する風景として、サスペンスドラマのワンシーンによく使われます。

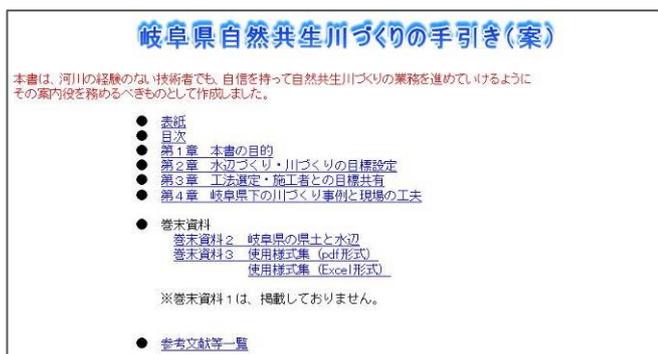
※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

研究・事例の紹介

岐阜県における自然豊かな水辺復活に向けた取り組み ～「岐阜県自然共生川づくりの手引き(案)」のご紹介

岐阜県では、平成13年より「自然の水辺復活プロジェクト」を推進し、全国で進められる多自然川(型)づくりと整合を図りながら、自然豊かな河川再生の取り組みが行われています。

こうした取組の一環として、河川を担当したことのない技術者でも自信も持って自然共生川づくり業務を遂行できることを目的に、副読本「岐阜県自然共生川づくりの手引き(案)」を作成し、その内容が岐阜県河川課ホームページ上で公開されましたので概要をご紹介します。



<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11652/project/kawatebiki/tebiki.html>

岐阜県河川課ホームページの手引き(案)紹介画面

本手引き(案)は、以下の3点を目指した内容で構成されているのが特徴です。

- (1)「川づくりの目標」をしっかりと持ち、それをイメージ出来るようにする。
- (2)「川づくりの目標」を達成するための自然共生工法が選択できるようにする。
- (3)「川を見る目」を養うことができるようにする。

これまで、川づくりの業務の第一線で活躍する実務者を対象とした技術指針類は多く作成されてきま

したが、「河川を担当したことのない技術者」をターゲットとした河川再生手引き類は全国的にも珍しく、技術者のみならず、河川・水辺の再生に取り組む様々な立場の方々に役立つ基礎知識が集約されています。

手引き(案)の目次

「岐阜県自然共生川づくりの手引き(案)」目次

第1章 本書の目的	
1.1 本書を手にした皆さんへ	
1.2 本書が目指すもの	
1.3 本書の内容	
1.4 本書の使い方	
第2章 水辺づくり・川づくりの目標設定	
2.1 目標設定の意義と目標設定作業の概要	
2.2 「目標事項の抽出と整理」の概要	
2.3 STEP1:対象河川に係る情報収集	
2.4 STEP2:目標設定を行なう区間の設定	
2.5 STEP3:目標設定のための現地踏査	
2.6 STEP4:様々な観点からの目標(案)の抽出	
2.7 STEP5:目標優先度の決定	
2.8 「目標設定の抽出と整理」のまとめ	
2.9 「目標設定の具体化」の概要	
2.10 STEP6:既存計画の確認	
2.11 STEP7:目標設定平面図の作成	
2.12 STEP8:目標を達成するためのアイデア発想	
2.13 STEP9:代表断面イメージの作成	
2.14 基本計画図・基本設計図の取りまとめ作業へ	
第3章 工法選定・施工者との目標共有	
3.1 どのように工法を選べば良いのか?工事発注までに何をしておくべきか?	
3.2 工法選定と施工時配慮事項抽出の流れ	
3.3 工法選定の条件整理と施工時配慮事項の抽出	
3.4 岐阜県自然共生工法認定工法の活用方法	
3.5 施工者に提示すべき情報の整理と目標の共有	
第4章 岐阜県下の川づくり事例と現場の工夫	
4.1 施工者との目標共有のための工夫	
4.2 施工段階での現場の工夫	
4.3 モニタリング・維持管理段階での工夫	
巻末資料1 現場で着目すべきポイントと水辺の見方	
巻末資料2 岐阜県の県土と水辺	
巻末資料3 使用様式集	

また、従来の技術マニュアル類とは異なり、技術者の思いや反省が手引きの随所に込められている点も、良い意味での手作り感のある全体構成となっており、過去の河川技術者達が培ってきた暗黙知を顕在知にするための先進的な取り組みとも言えます。

常に時代と共に姿を変えてきた河川と同様に、川づくりの技術や考え方も最終ゴールはありません。こうした観点から、本手引きは、新たな知見や手引き利用者の意見を随時反映しながら、2年に一回程度の頻度で更新を図っていく予定とのことです。こうした素晴らしい手引き（案）が、岐阜県内のみならず、全国の多くの河川再生に携わる方々に活用されることを期待しています。

岐阜県では、上記の手引き（案）の作成のみならず、自然豊かな水辺再生に向けた様々な活動が行われていますので、その一端をご紹介します。

●岐阜県河川課 HP：<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11652/>

■ 自然の水辺復活プロジェクトポータルサイト

設置カテゴリー	設置工法名	申請者名	認定番号
陸域部	鉄骨ブロックを使用した陸域部の大型ブロック護岸工法	(株)丸栄コンクリート工業 等	KAS-A09-001
陸域部	ポットロード	南濃コンクリート工業(株)	KAS-A09-002
陸域部	コアマット	新田工業(株)	KAS-A09-003
水陸部(植生)	アーニョンボラス橋ブロック工法	探徒川工業(株)	KAS-B09-001
水陸部(植生)	ビオレーゼロール(流速対応植生ロール)	山崎工業(株)	KAS-B09-002
水陸部(空陸)	入り組み空間ブロック(架)工法	南和エンクリート工業(株)	KAS-C09-001

http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11652/project/nature-shore_restoration_project/index.htm

ポータルサイトのトップページ

岐阜県が取り組む「自然の水辺復活プロジェクト」の活動成果を紹介し、また普及することを目的としたポータルサイトでは、自然豊かな水辺再生に関わる様々な技術工法が紹介されています。「ものづくり」「人づくり」「現場での研究」「産学官の協働」

という具体施策を推進する上で、河川再生に関わる複数セクターを横断的に繋ぐ役割を果たしています。

■ 「自然共生シンポジウム」の開催

平成 21 年 10 月に、岐阜県が取り組む自然共生川づくりの県民への普及と意見交換を目的として「自然共生シンポジウム」が開催され、シンポジウムの基調講演やパネルディスカッションの詳細を取り纏めた資料が以下のホームページで公開されています。



<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11652/project/sympo2009/program.pdf>

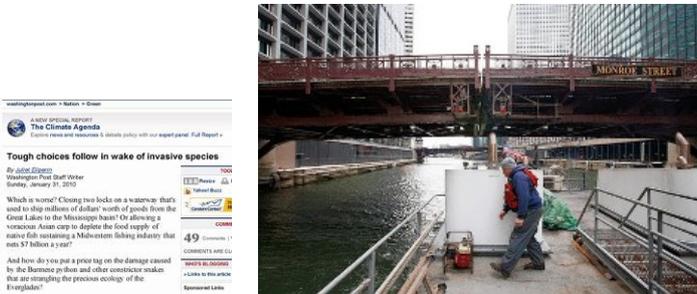
本資料における、スイス近自然学研究所代表・山脇正俊氏による基調講演「近自然学のススメ ～豊かさとの両立をめざして～」、またパネルディスカッション「未来はこどもたちのもの～次の世代にどんな自然を残すのか～」に関わる資料類は、今後の持続発展型社会における河川再生のあり方を考える上で非常に有益な内容と思います。

今回は、岐阜県河川課における河川再生に向けた取り組みの一部をご紹介します。国内外には、産学官の様々な活動主体による地域に根ざした河川再生に向けた取り組みが行われております。JRRN は、今後もこうした素晴らしい活動をご紹介しますことを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与していきたいと思ひます。

(JRRN事務局 和田彰)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ

【JRRN 会員からの提供情報】



JRRN 個人会員より、アメリカとカナダに位置する五大湖における外来種駆除に関する報道記事を複数御提供頂きました。この英文記事の日本語仮訳資料もご提供頂きましたので、以下よりダウンロード可能です。(言語：日本語)

○「困難な選択が外来種の軌跡の後から続いている」
→<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0023.pdf>

○「コイの脅威の最中に、フックをはずす呼び掛け」
→<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0027.pdf>

※オリジナル情報源は、ワシントンポスト及びウォールストリート・ジャーナルです。

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である「社団法人日本河川協会」様から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 142 回】

- ◆テーマ：「川を活かし、水に親しむまちづくり」
- ◆講師：陣内 秀信氏 (法政大学デザイン工学部教授)
- ◆日時：平成 22 年 3 月 15 日 (月) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館 (全国土木建築健保)

【第 143 回】

- ◆テーマ：「水・物質循環から見た自然と共生する流域づくり～沖縄石垣島を例として」
- ◆講師：池田 駿介氏 (東京工業大学 名誉教授)
- ◆日時：平成 22 年 4 月 26 日 (月) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館 (全国土木建築健保)

- ◆参加費：一般：500 円、
当協会二種正会員(個人会員)/学生：無料
- ◆申込/問合わせ：(社) 日本河川協会
TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426
E-mail：kataru@japanriver.or.jp
URL：<http://www.japanriver.or.jp/>

【海外からの提供情報】

河川再生事業の日本とヨーロッパの比較研究に取り組まれている英国リーズ大学環境学部研究員ウルリカ・オーベリー氏より、2009 年の英国河川再生センター(RRC)主催年次講演会での講演資料をご提供頂きました。

本講演資料では、ウルリカ氏が 2008 年の日本滞在時に横浜市和泉川で実施したフィールド調査の結果も含まれています。海外研究者が日本の川や河川事業をどの様に捉えているかを知る上でも参考になります。



韓国河川再生ネットワーク(KRRN)より

■第 8 回生態水工学国際シンポジウム (ISE2010)

ARRN の韓国窓口組織である韓国河川再生ネットワーク (KRRN) 前事務局長・Hyoseop Woo 氏 (ISE2010 現地組織委員会委員長) より、2010 年 9 月に韓国・ソウル市で開催される「第 8 回生態水工学国際シンポジウム(ISE2010)」のご案内を頂きました。本年の「第 7 回 ARRN 国際フォーラム」は、本国際会議の特別セッションとして実施致します。日本からの多数のご参加をお待ちしております。

- ・開催時期：2010.9.12~16
- ・開催場所：韓国・ソウル市
- ・主催：韓国水資源協会

※詳細は以下参照 (言語：英語)
→ <http://ise-2010.org/>

会議・イベント案内 (2010年3月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

特になし

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■第18回自然共生河川研究会～人と水と生物多様性～
○日時：2010年3月9日(火) 14:00～18:00
○会場：ミッドランドスクエア オフィスタワー 5階
○主催：(財)ダム水源地環境整備センター、(財)リバーフロント整備センター
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1914.html>

■「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」平成21年度研究成果報告会
○日時：2010年3月11日(木) 10:00～16:30
○会場：名古屋大学 I B 電子情報館
○主催：伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発研究プロジェクト
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1890.html>

■河川汽水域環境に関するワークショップ～河川汽水域の保全・再生・管理に向けて
○日時：2010年3月13日(土) 14:00～17:00
○会場：東京国際フォーラム1階
○主催：国土交通省国土技術政策総合研究所
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1913.html>

■東京の水辺空間シンポジウム～水辺で遊ぼう
○日時：2010年3月13日(土) 14:10～19:40
○会場：水上バス浅草発着場
○主催：東京都産業労働局
<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1882.html>

■第142回 河川文化を語る会『川を活かし、水に親しむまちづくり』
○日時：2010年3月15日(月) 18:00～20:00
○会場：厚生会館(全国土木建築健保)
○主催：社団法人日本河川協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1828.html>

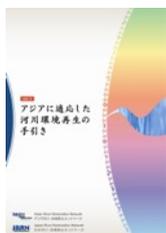
■第143回 河川文化を語る会『水・物質循環から見た自然と共生する流域づくり～沖縄石垣島を例として』
○日時：2010年4月26日(月) 18:00～20:00
○会場：厚生会館(全国土木建築健保)
○主催：社団法人日本河川協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1899.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。(JRRN事務局)

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)
・ 発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
・ 価格： 無料

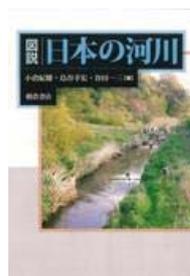


ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 図説 日本の河川 (2010.2 発刊)

・ 編者：小倉紀雄 ・ 島谷幸宏 ・ 谷田一三
・ 出版社：朝倉書店
・ 発行年月：2010年1月
・ 価格：¥4,515円(税込)
・ ISBN：978-4254180336



本書では、総説として日本の川の特徴に触れた上で、日本全国の53河川を取り上げ、川の魅力や豊かさ、自然、文化、特徴を美しい写真とともに紹介しています。なお、本書執筆にはJRRN事務局長や複数のJRRN会員の方々も関わっています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

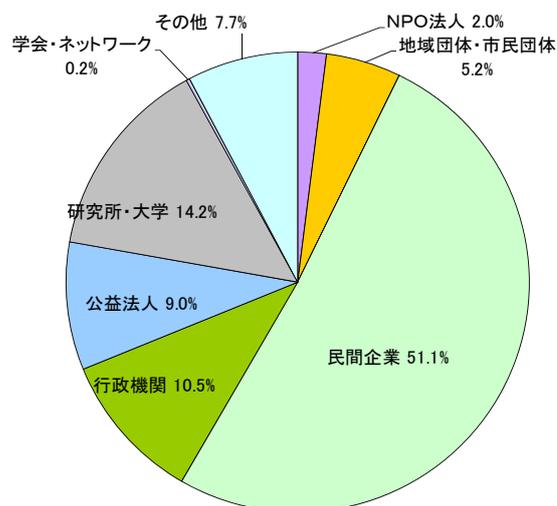
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010年2月28日時点の個人会員構成
(個人会員数：409名、団体会員数：18団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテー中央ビル7階

Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>